



ネパール・ミカの会

平成12年新年号 NO.11 2000.1.15発行

ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 こもれび堂内 tel 042-793-4170



あけましておめでとうございます

ネパール・ミカの会
会長 斎藤 謹也

本年もよろしくお願ひ致します。

ネパール・ミカの会は、おかげさまで順調な活動をさせていただき、内容も充実したものとなって、2000年(平成12年)を迎えました。会員の皆様のご協力のたまものと思います。

昨年9月の今村副会長、大谷事務局次長の中間調査旅行に引き続き、私も、12月12日-19日までネパールへ行って来ました(一行7名)。さすが、ベスト・シーズン。全行程ヒマラヤのすばらしい景観でした。

トワン・タンセン・ルンビニに加えて築田寺関係者によって寄進された、バルーン村セテガネス小・中学校(486名)の二教室校舎完成引渡し式に出席する為でした。ルンビニのシリマズワニマイ小学校の創立記念日典にも出席しましたが、校長が村人出席者にネパール・ミカの会の校舎寄進に、村としての教育の熱意をも答えなければならないという熱い演説が記憶に残ります。三小学校とも約9割の仕上がりぶりであと一歩。山下さん寄贈の井戸も、よき水が出ていました。3月5日からの「第4次ネパール教育支援の旅」も大変らしいものになりそうです。是非ご参加下さい。ラマ君は1月中旬にまいります。(埼玉県国際交流基金研)よく相談して、さらに旅の内容充実にも努めたいと存じます。世は不況。あまり景気のよい話はN・G・Cも例外でなく、「会費納入」や「寄付の呼びかけ」が各機関紙の冒頭を飾っています。ミカの

無理なくささやかに、でも、誠意を込めてがモットーです。志は高く持ち、精一杯の活動を繰り広げ、会員動に支えながら、「来るものはこばまず」サラッと、しかし熱意をもって平成12年を過ごしたいと存じます。ネパールの子らの笑顔を大きなバネのしながら。健康には十分ご注意下さい。

3年後のミカの会特集

順不同、敬称略

副会長 今村 旭

私は折に触れ良く「ネパール夢の記」を読み返す。三年前の夢の記その一。タイトルは「マホマディア小学助の旅」そうです。最初はマホマディア小学校の雨漏りの屋根修復工事が支援の柱だったのです。ついで夢その二。「ミカの会教育支援の旅」のタイトルとなる。ここではシリ・マズワニ小学校校舎増築工事着工式現した。またタンセンの大学にも図書支援が決まった。夢の記その三。夢ではなくルンビニに学校が建って。あの場所に遠目にもはっきりと白く立派に。そして2000年の3月夢の記その四では.....。シリ・グル・マイ小学校、シリ・シリ・ラム小学校、シリ・ルンビニ小学校。訪問団のメンバーはこれらの学校の新築式に一日中大忙しで子供達の輝く瞳の大歓迎にあう事でしょう。少ない予算と、スタッフで良くここまで出す。すごい事だと思う。郵政省の交付金が有るといえ、長引く不況の中、バザー等での細々として資金集めでくこれだけの事業を展開していると感ずる。この活動は全て、ボランティア精神により成り立っている。1名の大世帯になり、会員を見ていると、日常活動に取り組む姿勢に、多少の温度差を感じています。バザー会で会員の方にお会いすると、なぜか私はとても元気がでます。どうか一人でも多くの会員が日常活動に出

るだけ参加していただき、会のモットーに有る様に一人一人の会員が何か一つでも役に立つ事を目指して積極的に参加し、互いに手から手へ、あの知ってしまったネパールの人々との交流が「支援」を越えて、共に生きるよろこびを感じながら、3年後も着実に活動して居られれば、夢はそれで充分です。

シリ・マズワニ・マイ小学校
1999.12.16



副会長 加藤 誠一

3年後ひょっとして景気は今より回復しているかもしれませんが。財団の様に基金運用のボランティアだったらっていきませんね。ミカの会はもともとお金はありません。ささやかなバザーなどでまかなっているのです。政省や市のお金を使っている事業です。そんなにならないけど会費など安定したお金の基盤も必要になります。員数ももう少し必要になるのかもしれませんが。個人的には規模が大きくなるのは希望しません。社会的認知、影響力を持つにはもう少し内部充実が必要になるでしょう。ネパールとはインターネットで常時連絡が、写真やビデオの映像がほんの少しの時間の差で届くことになるでしょう。ネパールの子供達の声が直接聞けるようになるでしょう。きっとミカの会のホームページも整備され会員がいつでも新鮮な情報に触れる事が出、町田や相模原に限らず広範囲な会員が増加するでしょう。今のミカの
のいいところを残しながら充実を計るそんな3年間になって欲しいものです。

副会長 高原 担

たぶん最初の会員は20人位だったと思う。その後3年位で100になっています。活動も毎年活発になり、発足時とは大きく変わってきました。すべてが、なあなあ、でよかった会から、規約も整えなくては行けない会ってきました。私や、坂さんの感覚から脱皮しなければいけないようです。ボランティア活動も会が大きくなると、社会的影響も大きくなり、ボランティアだからというあまえが通用しなくなりそうです。3年後に会員が300人とか1000人になった時責任だけ多くなったり、会の運営が大変になったりしない会にしたいと思います。活動も活発になり、会の運営も無理が無く会員全てが楽しんで参加できるミカの会を予ています。ラマさんを中心としたネパールと日本の友好団体になればと思います。毎年何10人かの方がネパールに行き、いつもネパールから留学生が日本に来れるような活動になればと思います。国際的な友好関係は行き来が密になりより親密になることが不可欠です。ネパールは一つの国ですが、の国々にたいしても理解できるようなミカの会ができそうです。21世紀は国と国の境がなくなる世紀になると思います。3年後のミカの会はそのさきがけとなるでしょう。



事務局次長 大谷 安宏

ミカの会が着実な支援活動を継続的に発展しつづける条のひとつに所属するメンバーが共通する将来の目標値をもことが不可欠と考える。会としての将来ありたい姿を描きそれを達成するための長期的な目標値を掲げ、現実とのギャップを認識し、目標達成に至る課題を解決していくたの実行計画に個々が役割機能のなかで係り、成果が評価されていることが認識できることが会の更なる活性化にとって

な要件であると考え。郵政省ボランティア貯金の給付が活動資金の大きなウエイトを占める実情からは目標の確定は難しさはあるが、年度ごとのローリングと合わせ自己資金調達策を策定推進し、次年度の活動の確保が望まれる運用になると思われませんが、会の活動主旨『ゆっくり、ささやかに、仲良く、心をこめてもとに、2000年という新しい時代にあたり3年後のありたい姿を討議しながら、目標値を定め着実な支助を進めませんか。

ネパール・ミカの会3年後のありたい姿
(2000年~2002年)

年度末繰越額	150万円
会員数	20%増
校舎建設支援校	新規建設4校(ルンビニ地区) 新規建設2校(ルンビニ地区以外)
医療保健センター	増築1棟
図書支援校	新規支援3校
文化交流センター	タンセンセンター開設

青沼 義信

私は入会してまだ日が浅く、会の真の活動にたづさわっていないので会の3年後のビジョンを云々できる立ありません。しかし敢えて言うならば、現在『ネパール・ミカの会規約』に掲げてある「活動」を、一つ一地道に実施し、活動を通じてたくさんの人々に会の理念を理解してもらおうと共に、できるだけ多くの人々を得るべく努力することが、会としての「目的」を展開する上での活動の原点として最も大切でないかと思す。そして、その結果を大切にしていだけで十分ではないかと思っています。もし3年後のビジョンを掲としても、絵に描いた餅であってはならず、実現可能なものでなければなりません。この点は十分考慮すべ考えます。そして将来、これらの活動経験のノーハウを生かし、グローバルな活動に拡大して行くと言う大目標を持ちたいものと思っております。

シリ・マズワニ・マイ小学校開校記念日



秦 明広

よく「援助は難しい」と言われるが、援助をうける人々の文化、背景や置かれた状況を知らなければ返って迷惑を与え、最悪の場合は対立を生む。物を与えると言うことは大変難しいことなのだ。NGO活動は形ある物を与えることよりも、人を育て人と人とを結びつけ、現地の人々の心に自力で生きぬこうという希望を植えつけることだと思う。いつまでも与えるばかりの善意だけでは続いていけないし、第一不自然だ。

お互いに学び合い、与え合う関係が続くNGO活動でありたい。短期間で行くミカの会のツアーは忙しい。思い切ってタンセンとルンビニだけに絞ってはどうか。タンセンは文化交流で楽しみ、ルンビニは学校訪問の他に家庭訪問し話を聞く。表面だけを見て回るツアーは止めて、じっくりとその村を見たり、現地の人と話し合うことを大切にしたい。それによって自分達の住む日本社会の「正していかなばならない事の多さ」を学ぶことができる。そんなツアーでありたい。

ミカの会の活動がこれ以上大きくなってはついていけそうにありません。できる範囲で、ゆっくり、ささやかに」の発足時の趣旨にそって、2～3校程度か或いは一定の枠内での支助で継続してゆく会になった方が望ましいように思います。

和田 泰子

ネパールの国にとって、子どもたちにとって、どんな援助が本当に必要なのか、ネパールを6回訪ねたけれど、ほんとうのところ、よく分からない。また支援の方法も広く浅くがいいのか、狭く深くがいいのか(広く浅くは経済的に無理そうなので)もよく分からない。今は校舎建設した学校に奨学金を設けているが奨学生が青年になった時、日本に研修に来てもらい、何かを学ぶと共に日本のことを知ってもらうなど、ずっと繋がっているような支援がいいのかなとも思う。そうすると狭く(限られた地域で)深くがいいのかなあ。また今までの支援はネパール側からの要望もあるが、どちらかというと私たちが良かれと思うことをしてきと思う。これからはネパールの様々な年齢層の人々と話し合う機会を出来るだけ増やし、援助をより有意義にしたい。一歩進んで援助する側とされる側という関係でなく双方にとって有効な関わり方を見つけられないかと思う。

事務局長 坂 育夫

明日の読めない世紀末に三年後のミカの会を考える。さてさてどうしたものか？ ず三年前のミカの会はどうかであったか？ 確か三十万円前後でマホマディア小学校の改修に成功し、会員数も名程になって夢の記一号をほこらしげに出版した年であろう。それが現在の会員数が百名に達しね支援金額は軽く十倍以上になっている。この勢いを三年後にあてはめられるしい事になるが、やはり中身の充実といきたいところである。しかし乗りかかったネパールの現状にふれるとやりたい、やって欲しい事が頭の中にあふれ出る。ルンビニの文化村プロジェクト。ポカラ・タンセン間のトイレ付き小学校の建設、タンセン日本語学校(日本文化交流センター)の建設。日本の若者とのスタディツアー等である。なにかこんな事も、ヌルブ・ラマ君がいれば、っさりやってしまっているのではないかと考えさせるのが、ミカの会のすごさである。

後藤 栄

生まれて3年目とは思えない“ミカの会”の発展振りに皆さん方のご活躍がしのべれます。集まりに出席するにネパールの風が吹いているような楽しさ、ヒマラヤの白い山々を背景に新しい学舎と子供達の笑顔が目に入ります。楽しい計画が沢山生まれて、それが実行されていていつも活気にあふれているミカの会。年後にはどんな会に育っているのでしょうか。

小林 公子

れ位の金額でお役に立つならばと云う軽い気持ちで入会して三年が過ぎた。その間めまぐるしい発展で多く業にたずさわり、成功して本当にすごいなと感じている。三年後のミカの会となると、この調子で行けば色々の面で益々拡大して行き、国の内外でも名の知れた団体ではないかと思うと、私如き無力で無能な人間は果たして会の一員で残留しているのだろうか。ふう。

松浦 陽子

ロイヤルネパールが成田に参入してくれて、ネパールに成田から飛べたら良いな。(然も曜日制限されずに) 月例会は町田駅近くを(例えば図書館とか町田フォーラムの会議室等)を借りて出来たら、遠くの会員でも便利で良いな。 会員のせめて三割は年間活動にかかわってくれれば良いな。(年間行事に臨時の活動が飛び込むケースがあまり、少ないレギュラーメンバーで、スケジュール調整に無理が多い) ボランティアが主のネパール行きであることは勿論であるけれど、やはりトレッキングや観光部分は削らずにせめて10日間の日程が組めたら良いな。(何事にもゆとりの精神が大事だと思うから)

三年前の私は、今の私を想像できたであろうか？「ネパールの山を見に行きたいネ」「遠い所だけど、どのしたら行けるのかしら」等、友達と話し合っていたものです。それが第1回の教育支援旅行の報告展を見に、「夢の記」を読み、世羅美庵で坂さんに会い「ミカの会」に入会したのです。それからヌルブ・ラマさん甲斐駒ヶ岳に登ったり、第2回「ネパール教育支援の旅」に参加し、どんどん入り込んでしまい現在に至ります。「ミカの会」の三年後は想像できません。ただいろいろな行事に参加していつたら、まりの仕事の多さに、身動きが取れなくなり、何人かの人が賃金形態での事務所で働かなければならなくなのではと思います。行事に参加する事はとても楽しいし、充実するのですが、同じひとに負担がきている現在、運営方法をどの様にしたり、大勢の会員が手伝ってくれるかね考える事も必要なのでは。ネパールの三年後の姿は、ルンビニの小学校では、隣に中学校が建設し、義務教育となった学校で、子供達強し、校庭では元気に遊んでいる姿が、目に浮かんできます。でも三年後は無理でしょう。何十年後のネパでしょうか。今の子供達が小学校、中学校と勉強していき、大人となり、教育の大切さを理解していかなければ、変わっていかないでしょう。そのために私達は、ひとつひとつ確実に援助をしていく事が必要ではないでしょうか？ ビスタリ ビスタリ！

今村 知

私達の今の生活は、物は総てに満ち足りていても、何か足りなく求めている。そんな時ミカの会のボランティアに出会い、皆、飛びつき、百人もの会員の大家族になったと思います。“何か”は心をゆさぶる感動、楽し、満足感のように思います。これらは自分自身が動かないと得られないのです。催し一つの終りにヤッタ！思いがあり、そして次ぎの催しに向けてガンバロウ！！が湧いて来るのです。この同じ気持ちを一人でも多会員に広げて一回り大きな輪になっていたら良いなと思います。

速 報

1月例会にMr. ラマが出席します

明けましておめでとうございます。

1月の例会に研修で11日に来日したヌルブ・ラマさんが出席します。

例会に先立ち築田寺さんの協力を得て餅つきを行い、例会でいただきます。

会員の皆様の多数出席されることをお待ちしております。

2000年1月度例会

日 時	1月15日(土)	PM. 3:00 ~
場 所	こもれび堂	
	餅つき	PM. 1:00 ~





町田発国際ボランティア祭 '99夢広場

副実行委員長 加藤 誠一

秋晴れの中第2回夢広場が10月23日(土)開催されました。開会式では齋藤実行委員長の挨拶に続き町田市長寺田和雄名誉会長の挨拶を頂き盛大に開会いたしました。

30団体の国際ボランティアの出展、ステージでは各国の舞踊、演奏が披露され拍手喝采を受けていました。10000人を越す来場者で終日込み合い飲食関係は

早々と品切れするブースがありました。正直まだ2回目ということもありますが反省すべき点は多くスタートの遅さは致命的でもあります。

また実行委員会の役割、機能も十分でなく次回への宿題になります。いずれにしても楽しく市民の方々に少しでもNGOの役割、重要性を理解して頂ければと思います。ミカの会の皆様大変お疲れさまでした。

大船観音始末記

坂 育夫

大船観音の松山さんという住職代行が、齋藤会長の知人という事から、在日仏教徒の祭りをミカの会で応援する事になりました。11月14日早朝、大谷さんの車でバザー品を乗せて大船観音へ。朝日新聞全国版に紹介された事もあり、どんな祭りになるのかと期待に胸をふくらませたが、急な山道を駐車場に降りる時、急坂のカーブで車体をこすするというアクシデント。嫌な予感がジワリ。

売り上げも美術工芸館、大賀ぐうし館の委託商品を含め5,000円程であった。(松山方丈よりミカの会に20,000円のご寄付を頂きましたが。)しかし、海外へのNGOに比べ、日々の労苦を共にする在日カンボジアやミャンマーの人々を支援する原田さんをはじめ多くの人々を知ったこと。宗教という共通認識で人々の一つになれた事を体験させてもらえた事。個人的には僕は大いに満足したお祭りではありましたが、先に戻られた大谷さんには申し訳ない思いで、大きな観音様に見送られて帰路についたことを覚えております。



さがみはら・国際交流フェスティバル

サガミグループ代表 八木 健吉

さがみはら国際交流ラウンジが、国際学生会館及び大野北公民館で「踊ろう・語ろう・味わおう」にネパール・ミカの会も昨年に引き続き参加した。

主な内容は 民族料理と食のバザール エスニックと民芸品バザール 世界のティタイム 留学生と市民のつどい他多数。ミカの会は北公民館前、駐車場及び3階であつた。



食バザーのモモ、チャイの販売が、公民館正面ではやや狭い感があったが、晴天に恵まれ売上は良好売り手娘?(女性軍)は大忙し、日溜まりで汗ばむような場所だった。ネパール手工芸品バザーは、公民館駐車場の垣根を背にミカ得意の値段と国内品は新品が多く格安で好評。売上も上々。公民館3階のネパール写真展示及び活動紹介は今年3月の撮影で、今村副会長傑作大判40枚エレベーター3階前のロビー場所が良く、写真は迫力に富み圧巻。食い入るように見ている中年男。紹介の会報も早々に無くなってしまった。

設営はラウンジの指示で行われたが、ミカの会は準備が万全だったので問題は無かったが、最初にモモ、チャイの販売場所を移動させ

られたが、かえて良かったと思う。

なお、12月3日18時よりラウンジに於いてフェスティバル'99総括及び反省会に参加。

そこでのアンケート結果での人気順位では1.食バザー 2.世界のティタイム 3.エスニック民芸品バザー 4.リサイクル日本品バザー 5.子供の国際交流で8番目にネパール写真展となっていました。(回収率34%複数回答有り日本人207,外国人67)第3回目の参加は2000年の節目でもありミカの会は更に躍進し、大いにアピールしたい。

【会計報告】

会計 和田 泰子

会員の皆様のご協力で年末チャリティーバザーも無事に終わりました。秋のイベントの会計報告を致します。

第2回夢広場 1999.10.23

ゆめ観音in大船 1999.11.14

収 入		支 出	
売上(モモ、チャイなど)	¥133,569	材料仕入れ	¥10,135
寄付金	¥12,900	出店費用	¥1,000
募金	¥13,271		
合計	¥159,740		¥11,135
収 益	¥148,605		

収 入		支 出	
売上(バザー品など)	¥2,690		
寄付金(大船観音)	¥20,000		
合計	¥22,690		¥0
収 益	¥22,690		

収 入		支 出	
売上(モモ、チャイなど)	¥64,530	材料仕入れ	¥8,133
募金	¥3,903	国際フェスタに寄付	¥1,200
		反省会費	¥500
合計	¥68,433		¥9,833
収 益	¥58,600		

収 入		支 出	
売上(バザー品、古書)	¥124,170	材料仕入れ	¥18,826
合計	¥124,170		¥18,826
収 益	¥105,344		

さがみはら国際交流フェスティバル 1999.11.1

歳末チャリティーバザー 1999.12.18-19

今年も高原書店様がバザー会場を提供して下さり古書の売れ残った分を買い上げて下さいました。また、大勢の会員の方々が贈答品、衣類等をお寄せ下さった他、パウンドケーキ様タマゴ100ヶ、八ガキ100枚、麻ひもで編んだふくろう等のご寄付も頂きました。厚くお礼申し上げます。

援助金をご寄付くださった方々のお名前 1999.10-12月

会員外 山田良三様、大谷和代様、大石一馬基金様、加藤深香子様、田中七郎様、大船観音寺様
 会員 加藤末子様、今村旭様、山下繁憲様、稲垣美年子様
 寄付金合計 73,286円

品物をご寄付下さった方々のお名前

会員外のみ 市村八重子様、掃部淑子様、田中栄子様、星英子様、林恵美子様、根本紗恵子様、田辺敬子様

田中美規子様、緒方亨子様、荒井伊津美様、新庄洋子様、八丈紀子様、若松まつ子様、八木邦子様
 坪田直美様、松田美智子様、齋藤たい子様、篠崎昭子様 有り難うございました。

【編集後記】

いよいよ2000年特別変わることもないのですがすこし嬉しい?日本もネパールも良い年になりますよう。

S.K

第4次ネパール教育支援の旅を2000年3月5日～12日に実施します。
 ルンビニの太陽に真っ白に輝く校舎が更に3校増えています。子供達が笑顔で出迎え、
 村をあげての落成セレモニーと中学校建設用地、新規支援校の視察も予定しています。
 今年からスタートした奨学金制度の6人の晴れがましい顔も見ることが出来ます。
 憧れのタンセンでは図書支援校が5校に増え、『塩屋の娘』姉妹の通う女子校も加
 わりました。大好評の写真展も地元テレビ局の協力も得て、より盛大に開催します。
 カトマンドゥではチャリティーボーリング大会での支援金の一部を図書支援として
 ネパール大使館紹介の女子校を訪問します。
 観光はポカラ周遊又はダンプス・トレッキングでお楽しみ頂きます。
 ミカの会の地道な活動の成果を目の当りにする感動と感激の旅に多数の皆さん方
 ご参加を期待します。

第4次ネパール教育支援の旅

期 間	2000年3月5日(日)～3月12日(日)	8日間
費 用	一人あたり	210,000円 (概算)
行 程	3 / 5 (日) 羽田～関空～カトマンドゥ 3 / 6 (月) カトマンドゥ～ポカラ又はダンプス 観光又はトレッキング 3 / 7 (火) ダンプス～ポカラ～ヴィラワ～タンセン 3 / 8 (水) タンセン 図書支援校訪問、写真展支援校交流他 3 / 9 (木) タンセン～ヴィラワ～ルンビニ 落成式典、支援候補校視察 3 / 10 (金) ルンビニ～ヴィラワ～カトマンドゥ 診療所視察、観光他 3 / 11 (土) カトマンドゥ 図書支援校訪問、バザー品購入、観光 3 / 12 (日) カトマンドゥ～関空～伊丹～羽田	

シリ・セテガネス小中学校



シリ・シリ・ラム小学校 1999.12.16

